事例No.	1880
公表年度	R4
団体の属性	中核市
団体名	鹿児島県鹿児島市

事例区分	公営企業

タグ	・交通事業 ・ICT ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	DX

事例内容・タイトル

モバイル乗車券の導入

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【鹿児島県鹿児島市】
モバイル乗車券の導入

DX　交通事業

鹿児島県鹿児島市交通局経営課

取組の概要

利用者の利便性向上のため、乗車券を電子化し、スマートフォン等で利用できる「モバイル乗車券」を導入した。

◆総事業費　導入費用なし。販売手数料は実績に応じて変動。
（販売手数料実績：令和2年度99千円、令和3年度233千円）

◆背景

- 鹿児島市電・市バスの運賃支払いには、県外の交通系ICカード（SUGOCA含む）が利用できないため、県外からの観光客にとって不便となっていた。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の視点から、乗車券購入等における接触機会低減が求められていた。
- この課題を解決するため、これまで紙製のみだった1日乗車券にスマートフォン等で購入・利用できるモバイル乗車券を導入することとした。

◆具体的内容

- ジョルダン(株)が運営する「乗換案内」アプリをダウンロードしたスマートフォン等で購入・使用するものとし、決済方法は、クレジットカード及び電子マネーとした。

◆効果

- 車内や販売窓口等で購入する手間がなくなることにより、利便性が向上した。
- コロナ禍における乗車券購入等の安全性確保。
- 紙製乗車券の車内販売に係る乗務員の業務負担軽減（販売枚数に占めるモバイル乗車券の割合9.73%：令和3年度）。

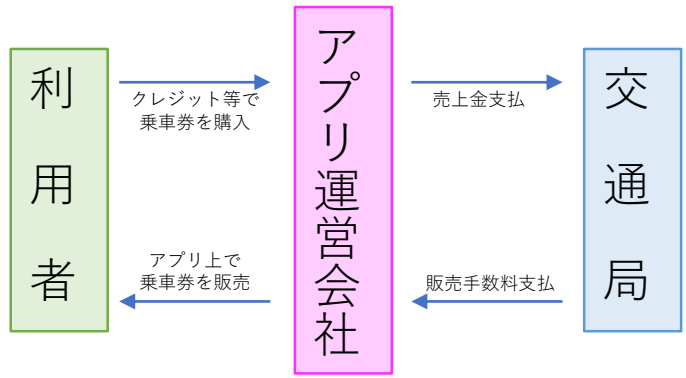
取組のポイント

- アプリのパッケージを利用したため、新たな乗車券の導入も比較的容易である。
- 時間管理ができるというモバイル乗車券の利点を生かして、「24時間乗車券（利用開始から24時間利用できる乗車券）」や「ナイトパス（17時以降、最終便まで使用できる乗車券）」も販売した。
- これらにより利用者が、自身の滞在プランに最適な乗車券を選択することができるようになった。

公営企業情報

- 行政区域内人口　591,772人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　547.6km^2（令和4年1月1日時点）
- 営業路線　軌道13.1km
  自動車152.4km（令和3年度決算）

運用スキーム



取組のスケジュール

- 令和元年5月に検討を開始し、令和2年8月に販売開始。
- 令和3年8月に「24時間乗車券」発売。
- 令和4年7月に「ナイトパス」発売。

今後の展望

- モバイル乗車券の拡充（新たな乗車券の発売や、既存の他の乗車券の更なる電子化）。